

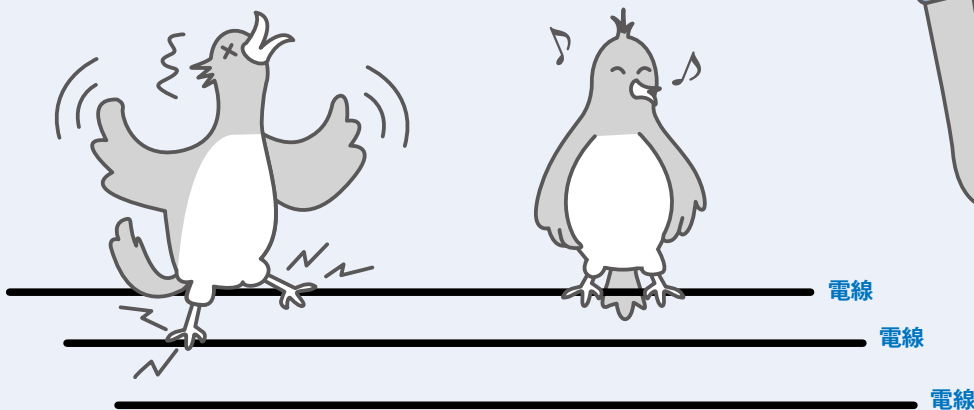
皆さんからお寄せいただいた疑問にお答えします。

No. 8

Q1 電線に止まる鳥は、なぜ感電しないの？

三重県のU・Kさんはじめ多くの
方々からご質問をいただきました。

1本の電線に
止まることができるから
鳥は感電しないんです



A 皆さんは電柱に鳥が止まっているのをよく見かけませんか。鳥が感電しないのは、鳥が電気に強い特別な体質を持っているのではなく、その止まり方に秘密があるからです。

電線に止まる鳥のほとんどは、両足で1本の電線をつかんで止まっています。電気には電圧の高い方から低い方へ流れる性質があるので、1本の電線上では電圧の高低差がなく、電気が鳥の体内を流れません。

また、電気には抵抗が少なく流

れやすいところを流れる性質があります。電線と鳥では、鳥の体内の方が抵抗が大きいため、電気は通りやすい電線の中を流れ、通り過ぎていきます。

電圧差があると感電する

しかし、鳥も2本の電線に触れると感電してしまいます。2本の電線の間には、電圧差があるため電気が体内を流れてしまうからです。

たとえば大きな鳥が2本の電線の間をまたいで止まったときや、

1本の電線に止まっても広げた羽が別の電線に触れると電気が流れて感電し、それが原因となって停電することもあります。

電線に絡まったタコ糸を外そうと、人が地表に立ったまま木の枝などで電線に触れると、電気が手や体、足を通して地面に流れ、感電します。電線と地面との間に電圧差があるため電気が体内を流れるのです。電線が切れていたり、電線に引っかかったものを見つけたら絶対に触らず、すぐに電力会社にご連絡ください。

Q2 中部電力のシンボルマークについて教えて!

静岡県の杉山一男さんから
ご質問をいただきました。

A 中部電力の従来のシンボルマークは1988年から20年近く使われてきました。中部電力のイニシャル「C」をモチーフに、「中部5県の調和と繁栄」、「原子力・石油・石炭・液化天然ガス(LNG)・水力の5つのエネルギーの調和」を象徴するもので、「夢気球」の愛称で呼ばれていました。

現在のシンボルマークは2007年から使用しています。当時の社会背景として、電力小売の自由化が始まり、エネルギー市場で業種や業態を超えた競争が進展。その中で、「経営環境の変化とともに、当社も変わり続けていく姿勢」を象徴的に示し、皆さまの期待に応えるため、デザインをリニューアルしました。

5県の調和と繁栄、エネルギーミックスを表現

現在のシンボルマークは、従来のデザインを踏襲しつつ、躍動感を強調。イニシャル「C」に、親しみと成長・発展を象徴する「花卉」をモチーフにデザインしています。

5つの花卉は、「5県の調和と繁栄」、「さまざまなエネルギーのべ

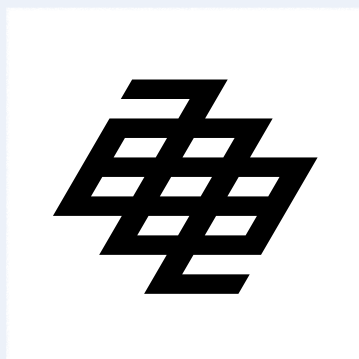
ストミックス」を表現しています。カラーは「あかりをともし続ける姿」をイメージして黄色から深紅へ変化する力強いグラデーションを採用。「変わり続けていく姿勢」を象徴すると同時に、中部電力の情熱と行動力、人々のよろこび、未来に対する期待感を表しています。

ちなみに中部電力にはシンボルマークのほかに社章があります。社章は1951年の当社設立にあたって図案を一般公募。3万点を超える応募作品から優秀作を選び、名古屋出身の画家、故・杉本健吉氏が創意を加えて図案化したものです。



このマークには
多くの意味が
込められています

社章(1951年の当社設立時に採用)



従来のシンボルマーク(1988~2007年)



現在のシンボルマーク(2007年~)



■このコーナーで「聞いてみたい」ご質問をぜひお寄せください。詳細は、巻末ハガキをご覧ください。